

親鸞聖人750回大遠忌 新湊組団体参拝募集

浄土真宗をお開きになった親鸞聖人の750回大遠忌法要が、平成23年4月より平成24年1月までの間、7期56日間にわたってお勤まりになります。西照寺の所属する新湊組に於いても、下記の通り団体参拝を致すことになりました。50年に一度という会い難い勝縁です。多くの方々お誘い合わせのうえご参拝くださいますようご案内いたします。

- ◇ 団体名 親鸞聖人750回大遠忌法要 高岡教区新湊組参拝団
- ◇ 期 日 平成23年6月9日(木)～6月10日(金)
- ◇ 募集人員 350名
- ◇ 会 費 42,000円(会費には御園座観劇料を含む)
- ◇ 宿泊ホテル 長島温泉(ホテルオリーブ) Tel0594-45-1111

主な行程

平成23年6月9日(木)
5:30 新湊(各地)観光バス ⇒ 10:50 大谷本廟 ⇒ 12:00 昼食
⇒ 13:00 本願寺法要参拝・おかみそり(帰敬式) ⇒ 18:00 長島温泉

平成23年6月10日(金)
9:30 旅館 ⇒ 10:30 名古屋御園座観劇 ⇒ 16:00 関の刃物 ⇒
19:30 頃新湊(各地)

*旅行中添乗員・看護士が同行致します。お部屋は定員をベースにご利用頂きます。

- ◇ 申込締切日 平成23年2月末日
- ◇ おかみそり(帰敬式) 冥加金1万円
- ◇ 大谷本廟への分骨もできます。(希望者)

◇ 申込問い合わせは、西照寺まで

0766-84-0705



西照

西照寺寺報「さいしょう」
第26号
2010年8月15日
発行 浄土真宗本願寺派 西照寺
高岡市吉久2丁目4-40
西照寺ホームページ nisitera.eek.jp

祠堂永代経 勤修

左記のとおり今年度の祠堂永代経をお勤めいたします。
お参りくださいませ。

おつめの時間

八月二十四日(火) 午後二時～

二十五日(水) 午後二時～

布教使 公文名真師 射水市市井 光照寺住職)

西谷山西照寺



正信偈のはなし 第三話

法蔵菩薩因位時（法蔵菩薩の因位の時）
在世自在王仏所（世自在王仏の所にましまして）
親見諸仏浄土因（諸仏の浄土の因）
国土人天之善悪（国土人天の善悪を親見して）
建立無上殊勝願（無上殊勝の願を建立し）
超発希有大弘誓（希有の大弘誓を超発せり）
五劫思惟之摂受（五劫これを思惟して摂受す）
重誓名 声聞十方（重ねて誓ふらくは 名 声 十方に聞えんと）

これよりしばらくは、『大無量寿経』によって、その教えの要が讃歎されていきます。

先ず、法蔵菩薩の物語からはじめられます。
計り知れない遠い昔、世自在王仏という仏様がおられた。その時、一人の国王がいて、その説法を聞いて深く喜び、自らも仏となつて世の人々を救いたいと出家して修行者となり、法蔵と名乗りました。法蔵菩薩の誕生です。

陀仏（たぶつ）が、あらゆる人々に届き、悩み苦しみから救われていく道のあることを知らせたいと、重ねて願われています。
そうして、その願いが完成して阿弥陀仏となり、浄土を建立された。

さらにそれは何時のことかと云うと、『大無量寿経』には、「法蔵菩薩が、無量寿仏（阿弥陀仏）という仏となつて、西方浄土を建立されてどれくらいたつていたのでしょうか」という阿難尊者（あなんそんしや）の質問に対して、「もうすでに仏になられて十劫の時が過ぎていゝる」と釈尊は答へられています。

この話の中で、五劫とか十劫という言葉が出てきますが、「劫」は古代インドの時間を表す単位です。經典には、四十里四方の石を、百年に一度ずつ薄い衣で払つてその石がなくなつても劫は尽きないという「盤石劫」や、四十里四方の鉄城に芥子粒（けしつぶ）を満たし、百年ごとに一粒ずつ取り出し、すべての芥子がなくなつてもまだ劫は尽きないという「芥子劫」の話がでています。いづれも人間では考えも及ばない、とてつもなく長い時間ということなのです。



菩薩とは、あらゆる人々を救いたいときとりを求める修行者のことです。修行中の状態を「因位」といい、修行を完成させた状態を「果位」と表現します。ですから、修行中の因位の名前が法蔵菩薩であり、それを完成された果位の名前が阿弥陀如来（あみだにょらい）ということになります。

法蔵菩薩は、世自在王仏のもとで、二百一十億という諸仏の浄土の成り立ちや浄土に住む人々のありさま（善悪）をつぶさに拝見させていただき、学ばれた。そして、そのなかから取捨選択して、諸仏もなしえなかった、仏教に耳を傾けない人も非難する人も、極重の悪人もあらゆる人々をお念仏一つで救うという、この上もない優れた願いを起こされました。その誓願を成就するために、五劫という途方もない長い間思惟を重ねられたと云います。

その願いは、法蔵菩薩の「四十八願」（四十八項目の願い）と言われるものです。なかでも第十八番目の願いは、根本の願いにあたることから「本願」といいます。

第十八願では「私が仏となるときに、すべての人々が我が国に生まれたいと願つて念仏して、生れることができなければ、私は仏にはならない」と誓われています。すべての人をお浄土（じやうど）に迎え入れて、必ず仏になるようにして救いたい。そのために、わが名（南無阿弥

親鸞聖人は、この『無量寿経』に説かれる本願念仏の中に、罪悪深重の私が救われていく道をみいだされていかれました。そして、法蔵菩薩の願いのなかに、人間のめざすべき究極的な精神をくみとられ、それを抛り処に生き抜かれたのでありました。

第八代目の本願寺門主（もんしゆ）である蓮如上人は、「弥陀をたのめば南無阿弥陀仏の主に成るなり」と述べておられます。弥陀に救われるということとは、ただありがとうございますといつて何もしないことではありません。弥陀の願いこそ、私の究極的な願いであったと気づかされて、その精神に生きよう（主に成る）とすることです。

（文責 住職）

公開講座（無料） 自死・自殺を考える

- ・ 9月4日（土）
- ・ 午後2時～5時10分
- ・ 会場 石丸山 光正寺
射水市本町 2-2-16
TEL 82-3356

・ パネリスト
清水新二（奈良女子大名誉教授）
「自死を社会問題として理解するとは？」
澤井登志（大阪自殺防止センター所長）
「傾聴とビフレンディング」
竹本了悟（京都自死自殺相談センター代表）
「西本願寺の取り組みを通して」

主催 浄土真宗本願寺派新湊組